

エチレンセンター 11社の収益状況について (平成18会計年度)

平成19年6月25日
製造産業局化学課

平成18年度のエチレン生産量は、定期修理及び設備トラブルがあったものの、中国を中心とするアジア地域の景気拡大や国内での民間需要を中心とした景気回復傾向の継続を背景に、各エチレンセンターとも高稼働が継続したことにより、766万1千トン（対前年同期比1.5%増）と若干増加した。

平成18会計年度のエチレンセンター11社の石油化学部門の売上高は、ナフサ等の原料価格高騰の影響はあったものの、国内外の誘導品需要が堅調に推移したことを背景に製品市況が上昇したことにより、4兆5,365億円（対前年同期比14.5%増）となり、過去最高となった。

また、経常利益は、売上高の増加、合理化努力によるコスト削減及び原料価格高騰に伴う製品価格の改定に努めたことにより、経常利益2,725億円（対前年同期比55.4%増）となり、過去最高となった。

この結果、売上高経常利益率は6.0%と前年同期に比べ1.6ポイントの増加となった。

エチレンセンター11社の石油化学部門の収益推移（単独ベース）

（単位：億円）

年度		13	14	15	16	17	18
石油化学部門	売上高 [億円] (前年同期比:%)	23,982 (-7.3)	25,948 (+8.2)	27,478 (+5.9)	34,199 (+24.5)	39,634 (+15.9)	45,365 (+14.5)
	営業利益 [億円] (前年同期比:%)	211 —	613 (+190.4)	709 (+15.7)	2,156 (+204.1)	1,770 (-17.9)	2,455 (+38.7)
	経常利益 [億円] (前年同期比:%)	913 (+0.3)	431 (+473.4)	654 (+51.6)	2,132 (+226.0)	1,753 (-17.8)	2,725 (+55.4)
	売上高経常利益率 (%)	3.5	1.7	2.4	6.2	4.4	6.0
全社	売上高 [億円] (前年同期比:%)	38,936 (+7.1)	38,236 (+6.1)	40,148 (+5.0)	47,985 (+19.5)	54,930 (+14.5)	61,927 (+12.7)
	営業利益 [億円] (前年同期比:%)	— —	1,319 (+110.2)	1,369 (+3.8)	2,963 (+116.4)	2,557 (-13.7)	3,448 (+34.8)
	経常利益 [億円] (前年同期比:%)	1,494 (+11.5)	1,186 (+86.8)	1,322 (+11.5)	3,111 (+135.3)	2,693 (-13.4)	4,059 (+50.7)
	売上高経常利益率 (%)	3.8	3.1	3.3	6.5	4.9	6.6

（平成18年度集計対象）

出光興産（株）（石油化学部門）、大阪石油化学（株）、山陽石油化学（株）、昭和電工（株）、新日本石油（株）、住友化学（株）、東ソー（株）、東燃化学（株）、丸善石油化学（株）、三井化学（株）、三菱化学（株）

【参考】

エチレンセンターの石油化学部門の収益推移（連結ベース）

（単位：億円）

年度		13	14	15	16	17	18
石油化学部門	売上高 [億円] (前年同期比:%)	32,787 (-3.2)	36,025 (+9.9)	37,542 (+4.2)	46,386 (+23.6)	55,179 (+19.0)	63,184 (+14.5)
	営業利益 [億円] (前年同期比:%)	643 (-51.9)	1,236 (+92.2)	1,380 (+11.7)	3,338 (+141.9)	2,946 (-11.7)	3,856 (+30.9)
	売上高営業利益率 (%)	2.0	3.4	3.7	7.2	5.3	6.1

注) 連結対象会社の変更等があるので、前年度と単純な比較はできない。

（平成18年度集計対象）

旭化成（株）＜ケミカルズ部門＞、出光興産（株）＜石油化学製品部門＞、昭和電工（株）＜石油化学部門＞、新日本石油（株）＜石油化学製品部門＞、住友化学（株）＜石油化学部門＞、東ソー（株）＜石油化学部門＞、東燃ゼネラル（株）＜石油化学製品部門＞、丸善石油化学（株）＜単独の数値＞、三井化学（株）＜石油化学、基礎化学品、機能樹脂部門＞、三菱化学（株）＜石化部門＞